

氏著書「華岡青洲先生その業績とひととなり」を訪れたとき入手。展示品、復元された建物を見学して医療現場の関係を確認した。

【結果】漢方薬麻酔の名は通仙散または麻沸散という。薬草は6種、蔓陀羅華、草烏頭、白芷、当帰、川芎、南星炒である。術前の体力向上として人参栄養湯、回生散、生神散などを使用。乳癌手術第一例は1804年10月13日。以後156名の記録（全例手術ではない）。北海道以外全国各地から集まっている。乳癌以外に一般外科、脳外科、眼科、顔面、口腔、頸部、皮膚科、整形外科、泌尿器科、婦人科と広く行われていた。

【考察】漢方医学のみの時代に外科手術を成功させていた事実は驚異である。術前管理、術後管理も食事と漢方薬を用いて一貫した治療体系を確立していたものと考えられた。

7 新潟県における薬草について (2)

須永 隆夫

木戸クリニック

【緒言】新潟県の各地で生薬が生産されている。生薬生産の一部を報告し、かって栽培され、野生化した佐渡おけら（ホソバオケラ）の分析結果と日常の利用法も報告する。国内での生薬生産と利用についても考えたい。

【方法、結果】生産者、保存会、薬用植物担当の町職員より聞き取り、現地見学とした。県の生薬生産担当部よりの資料を参考とした。県内の中間山地を中心に、イチョウ、シャクヤク、トウキ、ドクダミ、ヨモギ等が生産される。江戸時代に栽培された佐渡おけらは、現在、野生化したものもあり、保存されている。新潟薬科大学での分析結果、典型的な蒼朮（ホソバオケラ）のパターンを示した。佐渡おけらは、虫よけ、カビよけ、燻蒸、茶花などの利用がある。津南で栽培のホソバオケラは、生薬として流通していない。芍薬は一部切り花として利用される。

【まとめ、考察】新潟県における生薬のいくつかの現状を追った。稀少種生薬の佐渡おけらの保存と栽培が始まっているが、生薬の流通にのってい

ない。保存、そして国内での生産と利用が進めばと思う。

II. 特別講演

1 困ったときは漢方で — カゼからガンまで

広瀬 滋之

愛知県広瀬クリニック

漢方薬は私たちの大変身近にあり、またその良さを知って普段の生活に生かすととても役に立ちます。漢方医学は約2000年前に中国で生まれ、長い歴史と経験の中でそれぞれの国の伝統医学として重んじられ、中国では中医学、韓国では韓医学、日本では漢方（医学）として発展し、今では私たちの健康増進、難病の治療にずいぶん役立っています。約25年前から、漢方薬が健康保険にも採用され、一般の医療機関でも患者さんの希望に応じて漢方治療が受けられるようになりました。

さて、私のクリニックでは、カゼ、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、虚弱体質、自律神経失調症、慢性肝炎、膠原病、関節リウマチ、ガンといった、あらゆる病気の人が漢方治療のために大勢やってきます。ところで、漢方と現代医学の違いで最も大切なことは、現代医学が細菌やウイルス、ガン細胞などの外敵を倒すことを大きな目的とし、また血圧や不整脈をコントロールするのに大勢の人に同じような治療をするのに対し、漢方は一人一人の体質を見極めながら、それぞれの状況に合わせてメニューを考え、最終的には人間が本来持っている自然治癒力（ホメオスターシス）を十分に発揮できるようにパワーアップすることを目的とした医療です。今風の言葉で言えば、人間の構造改革をしながら健康を維持し、病気に打ち勝つ力を養うことを目的としているのが漢方医学なのです。

さて、カゼには葛根湯というように、誰でもカゼに漢方薬が効きそうなことはご存知のようですが、他にも多くの漢方薬のカゼ薬があります。ところが使い方をうまくすると、カゼには漢方薬が大変威力を発揮するのです。今回は、この辺りの